

議 事 概 要

主な意見は以下のとおり。

水上交通の検討について

- 水上交通は、渋滞緩和や待ち時間のストレス緩和に資するものとなり、是非実現させるべきではないか。
- 関門港として、北九州側と下関側ではこれまでも交通や誘致の観点で協力しており、関門地区の水上交通の検討は非常に有意義。
- 下関地域の魅力向上という面で、水上交通は移動手段だけでなく観光の素材としても活かすべき。
- 中国人観光客の挙動も変化しており、今後個人客（FIT）の増加も考えられるため、それらの観点からも水上交通の可能性を検討すべき。

ルートについて

- 北九州港側から下関側へのルートについても検討すべきではないか。
- 水上交通として想定される船は、100人定員の場合、バス2台分となる。バス、タクシー、船を、行きと帰りで組み合わせるなど、全体の交通の中で水上交通を位置づけられないか。
- 70分かかるルートは移動手段ではなくクルーズとして観光要素を取り入れたものにすべきではないか。

水上交通での上陸後の対応について

- 水上交通により、100人程度の乗客が上陸した際に、タクシー等での対応ができるかどうかについては、検討が必要ではないか。
- 水上交通のターゲット層は個人客であることが想定されるため、観光情報や交通情報の分かるパンフレット等の活用も含め、プレ実験時に調査すべきではないか。

漁港や水門の航行について

- 水上交通ルートの候補に含まれる下関漁港や水門の航行については、浮遊ゴミの存在や上陸後に歓楽街を通るため、課題があるのではないか。
- 水門の活用は、インバウンドのみならず、国内旅行客にも下関の宣伝につながるものであり、活用すべきではないか。
- 水門については、以前、世界一小さいパナマ運河式ということで、ツアーが造成された。高額で厳しいという結論になったが、人気は高かったため、活用すべきではないか。

（了）